

〔科目名〕 経済変動論	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 専門科目 展開科目
〔担当者〕 高尾 築 Takao Kizuku	〔オフィス・アワー〕 時間: 初回の授業でアナウンスします 場所: 初回の授業でアナウンスします	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 <p>2年次のマクロ経済学を履修した学生を対象として、さらに一步進んだ中級以上のマクロ経済理論を講義します。現代のマクロ経済理論では、ミクロ経済学の最適化行動理論を土台にし（これをミクロ的基礎づけ(micro foundation)と言います）、時間経過とともに経済主体の行動がどのように変化するかをも考慮して分析します。本講義では、このようなフレームワークに沿った財政政策と金融政策の議論を中心にみていきます。</p> <p>具体的な講義内容は以下の通りです：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 分析の煩雑化を避けるため、時間推移を2期間のみに限定したライフサイクルモデルをみていきます。モデルに基づいて、消費税増税のアナウンスメント効果を分解して解釈できることを目標とします。 (2) トービン q 理論をみていきます。無限時間視野の企業の投資決定を理解するのを目標とします。 (3) 資産価格形成、長期金利と短期金利、名目金利と実質金利、日本銀行当座預金などの金融政策を分析する上での必須事項を確認したのち、伝統的金融政策から非伝統的金融政策までみていきます。日本での実際の金融政策運営の変遷を理解するのを目標とします。 (4) 最後に「ソローモデル」を取り上げ、経済成長について考えていきます。ソロー収束性と TFP についての理解を目標とします。 <p>また理論手法の習得だけでなく、適宜、関連する現実データを紹介し、現実の経済課題を考える機会を数多く提供したいと思います。</p>		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 ・より高度な分析手法を学習することで、視野の広い経済学的思考力が得られます。 ・マクロ経済学を用いる応用分野の授業(金融経済学, ファイナンス理論, 財政学, 公共政策論など)と関連します。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 中間目標 ・マクロ経済変数(消費, 投資, 金利, インフレ率等)が, 時間の変化とともに, どのように変化していくのかを分析するための手法・考え方を理解する。 ・日本や世界各国の様々な経済事例を知り, 現実のマクロ経済政策課題を知る。 最終目標 ・どのような因子がマクロ経済変数に影響を与えるのかを, 高度な分析ツールに基づき, そのメカニズムを踏まえて説明できるようになる。 ・新聞・テレビ等で報道される経済ニュースについて, その背後にあるメカニズムを動学的な視点から考え, 自分なりにそれを議論できるようになる。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 例年, 受講生間の数学能力のバックグラウンドに著しい分散が認められるので, 数学予備知識の確認を実施します。		
〔教科書〕 特に指定しない。		
〔指定図書〕 ・二神孝一・堀敬一, 「マクロ経済学 (第2版)」, 有斐閣, 2017年 ・福田慎一, 「金融論 ― 市場と経済政策の有効性 新版」, 有斐閣, 2020年 ・小林照義, 「金融政策 (第2版)」, 中央評論社, 2020年		

<p>〔参考書〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西村幸浩,「財政学入門(経済学叢書 Introductory)」, 新世社, 2013年 ・デビッドローマー(著), 堀雅博 他(翻訳),「上級マクロ経済学」, 日本評論社, 2010年 													
<p>〔前提科目〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイクロ経済学, マクロ経済学, 経済数学 													
<p>〔学習の課題、評価の方法〕(テスト、レポートなど)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初回授業にてアナウンスします。 <p>期末筆記試験が実施可能な場合は持ち込みありの筆記試験を実施し, そのスコアで成績評価を行います。実施できない場合は, レポート試験によって成績評価を行います。</p>													
<p>〔評価の基準及びスケール〕</p> <table border="1"> <tr> <td>評価</td> <td>得点比率</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>80%~100%</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>70%~80%未満</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>60%~70%未満</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>50%~60%未満</td> </tr> <tr> <td>F</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>		評価	得点比率	A	80%~100%	B	70%~80%未満	C	60%~70%未満	D	50%~60%未満	F	50%未満
評価	得点比率												
A	80%~100%												
B	70%~80%未満												
C	60%~70%未満												
D	50%~60%未満												
F	50%未満												
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハンドアウトに基づき, スライド投影と板書を併用して講義を行います。 板書を書く際には, 大きくて見やすい字を心掛けます。板書の綺麗さには定評があると自負しています。 ・数学を使う場面が多いです。しかし, 高度な数学知識は必要ありません。数式の取り扱い自体は他のどの授業よりも難しく見えるかもしれませんが, ちょっと偏微分とかをするだけで, 基本的には文字式が多いだけです。わかりやすく教えるので, 加減乗除ができて, 初歩的な指数対数・微分の知識があれば, 大丈夫だと思います(これについても初回の講義あたりに確認します)。 <p>ただし, 経済数学単位未取得の学生は絶対に受講しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(予習は特に前提とはしませんが)復習は必ず行ってください。 ・以下の授業スケジュールはあくまで予定で, 学習進度に応じて若干変更する場合もあり得ます。 													
<p>〔実務経歴〕</p> <p>該当なし</p>													
<p>授業スケジュール</p>													
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): インTROダクシオン</p> <p>内 容: 乗数効果再考, ルーカス批判</p> <p>教科書:</p>												
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 数学準備</p> <p>内 容: 指数対数, 二次関数, 一階微分, 偏微分, 最適化</p> <p>教科書:</p>												
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 家計の消費・貯蓄行動 (1)</p> <p>内 容: 2 期間モデル (1)</p> <p>教科書:</p>												

第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 家計の消費・貯蓄行動 (2)</p> <p>内 容: 2 期間モデル (2)</p> <p>教科書:</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 家計の消費・貯蓄行動 (3)</p> <p>内 容: 消費税のアナウンスメント効果</p> <p>教科書:</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 企業の設備投資行動 (1)</p> <p>内 容: 新古典派投資理論</p> <p>教科書:</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 企業の設備投資行動 (2)</p> <p>内 容: トービン q (1)</p> <p>教科書:</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 企業の設備投資行動 (3)</p> <p>内 容: トービン q (2)</p> <p>教科書:</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 金融政策 (1)</p> <p>内 容: 効率的市場仮説, 金利の期間構造</p> <p>教科書:</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 金融政策 (2)</p> <p>内 容: フィッシャー方程式, 日銀当座預金</p> <p>教科書:</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 金融政策 (3)</p> <p>内 容: 伝統的金融政策, テイラールール</p> <p>教科書:</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 金融政策 (4)</p> <p>内 容: 非伝統的金融政策</p> <p>教科書:</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): TFP (1)</p> <p>内 容: ソローモデル</p> <p>教科書:</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): TFP (2)</p> <p>内 容: 技術進歩を考慮したソローモデル</p> <p>教科書:</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): TFP (3)</p> <p>内 容: 収束</p>